

コード	205030103
記入日:	H22.6.11

課コード	106
課名	総務課
課長名	堀江英生
担当者	本谷大輔

## 事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	消防団分団運営費補助金
----------	-------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	9		
施策コード	205	施策名称	安全を実現できる体制づくり	項コード	1		
基本事業コード	20503	基本事業名称	消防団組織と消防施設の充実	目コード	2		
事務事業コード	2050301	事務事業名称	消防団事業費	細目コード	936		
関連計画				法令・条例規則等	新上五島町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例		

**計画(PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標				
(対象1)	新上五島町消防団	(対象指標1)	57分団 965名(平成21年4月1日現在)			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・町消防団地区分団への運営費補助 965名分  ・事業内訳 補助金 3,864千円	① ***** 補助金支給回数	***** 1回	***** 100%	***** 補助金支給回数1回÷ 補助金支給予定回数1 回	***** 平成21年度
		(達成率分析)	年に1回、全分団に団員数を基礎に補助金を支出した。			
		② *****	*****	*****	*****	*****
		(達成率分析)				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		① ***** 防火対応日数	***** 365日	***** 100%	***** 防火対応日数365日÷ 年間日数365日	***** 平成21年度
消防団の地区分団が自主的な消防団活動や施設・車輛・機械等の整備管理の向上を目的とするような分団の運営に関する補助を目的としている。		(達成率分析)	消防団の地区分団が自主的な消防団活動や施設・車輛・機械等の整備管理を行い、緊急事態に対応できた。			
		② *****	*****	*****	*****	*****
		(達成率分析)				

**実施(DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 回	5	5	4	1	1					
	②										
成果指標	① 日	1,826	1,826	1,461	365	365					
	②										
総事業費C(A+B)	千円	23,888	23,780	19,216	4,672	4,564					
直接事業費A	千円	20,388	20,280	16,416	3,972	3,864					
人件費B	千円	3,500	3,500	2,800	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.5	0.5	0.4	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	23,888	23,780	19,216	4,672	4,564					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	町民の身体及び財産を各種災害から守る地区分団活動を低下させないためにも必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	町民の身体及び財産を守ることは不変的なものであり必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	地区分団の活動を支援するためであり適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	消防団本部が計画し、予算に反映している活動以外にも、分団が必要と思う活動を展開している。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	消防団員の人員確保が必要である。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	分団の活動が低迷し、消防団活動の活性化に支障をきたす。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	類似事業がない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	水火災及び地震等の災害に対応するためには、現在の消防団活動を低下することはできない。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	大規模な組織である消防団を運営するためには削減することはできない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	受益者負担はなし。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		有効性	消防団員確保のために、広報誌の掲載や地区(総会等)での呼びかけを実施する必要がある。
		効率性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		課題に向けた改善策	新入団員確保の促進
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	円滑な消防・防災体制の維持に努めるとともに地区分団の維持・運営に努めること。
		効率性	補助基準により適正な執行に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。